

事務事業ID 1351		平成 27 年度		事務事業マネジメントシート		平成 27 年 6 月 1 日作成			
事務事業名 大船渡市鳥獣被害対策協議会参画運営事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業							
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間		予算科目			
	施策名	20 地域の特性を生かした農林の振興							
	基本事業名	01 農業経営の安定化							
根拠法令				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成20 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		01 06 01 08 04			
所属	部課名	農林水産部							
	課長名	金野久志							
	係名	林業係	電話 27-3111						
	担当者	鈴木林	内線 7126						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・大船渡市鳥獣被害対策協議会に負担金を支出する事業。 ・大船渡市鳥獣被害対策協議会は、大船渡市、大船渡市農業協同組合、三陸ふるさと振興株式会社、気仙地方森林組合、大船渡猟友会、三陸町猟友会、大船渡保健福祉環境センター、大船渡農林振興センターを構成員として組織されている。 ・協議会では、岩手県鳥獣被害防止総合支援事業を活用し、防護網の設置や個体数調整、被害防除、生息環境管理など、地域の実情に応じた総合的かつ効果的な鳥獣被害防止対策事業を行っている。 ・構成団体として、協議会に対して、負担金を拠出している。 ・協議会事務局は農林課林業係に置き、職員が事務を執行している。				全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0					
1 現状把握の部(DO)									
(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段(主な活動)				⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)					
前年度実績(前年度に行った主な活動)				名称 単位 ア 総会出席回数 回 イ ウ					
・協議会が主催する総会への出席。 ・協議会への負担金の拠出。 ・事務局として協議会の運営									
今年度計画(今年度に計画している主な活動)				⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)					
・前年度と同様。				名称 単位 カ 協議会構成団体 団体 キ ク					
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等				⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)					
・大船渡市鳥獣被害対策協議会				名称 単位 サ 総会出席人数 人 シ 鳥獣被害対策事業費 千円 ス					
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)									
・負担金の納入により、協議会の運営が健全なものになり、鳥獣被害対策に関する事業が円滑に実施される。									
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)									
・安定して農業を営む。									
(2) 総事業費・指標等の推移									
		単位	年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
		事業費計(A)	千円	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	200	200	200	200	200	200
		人件費計(B)	千円	800	800	800	800	800	800
		トータルコスト(A)+(B)		千円	2,300	2,300	2,300	2,300	2,300
⑤活動指標	ア	回	1	1	1	1	1	1	
	イ								
	ウ								
⑥対象指標	カ	団体	8	8	8	8	8	8	
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	人	8	8	8	8	8	8	
	シ	千円	10,000	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	
	ス								

事務事業ID	1351	事務事業名	大船渡市鳥獣被害対策協議会参画運営事業
--------	------	-------	---------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

・シカによる農林作物への被害が後をたたず、被害が拡大していること、里シカ化が進み被害が広範囲に及んでいることから、地域の実情に応じた総合的かつ効果的な被害防止対策事業を行っている。平成20年度から開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

・シカによる農作物の被害軽減を図るため、さまざまなシカ被害防止対策を実施しているが、依然として被害が後を絶たず、地域の実情に応じた総合的かつ効果的な被害防止対策の継続が必要な状況にある。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・特定地区の農地に限らず、市内全域に被害が及んでおり、各地区での市政懇談会等において、シカを始めとする鳥獣被害の対策の強化が求められている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	・協議会への参画を通し、シカによる農作物被害の減少が図られ、農家の安定した農林作物の生産及び供給による、農林業経営の安定化が可能になり、その結果、農林業の振興に寄与することとなることから、政策体系に結びつく。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	・協議会は、市内の関係団体で組織されている。市はこの協議会への参画を通し農林業振興を図ることになるので、関与は妥当。	
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	・協議会に負担金を納入して運営を支えることで、農林業の振興に寄与することになるので、対象、意図ともに適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	・引き続き農林業振興につながる事業を円滑に行うためにも、継続して参画する必要がある。	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	・協議会は、市内の関係団体が相互に連携し、一体となった取り組みを強化し、市内農林業の発展を期すために事業展開しており、事業への参画は必要。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	・岩手県鳥獣被害防止総合支援事業を活用し、総合的かつ効果的な鳥獣被害防止対策事業の実施に対応できる団体はない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	・現時点で事業費を削減することはできないが、事業の継続によって農作物等の被害が大幅に減少すれば、実情に応じて事業費を削減することは可能である。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	・協議会の事務局を担当しており、業務所要時間は適切であり、削減の余地はない。	
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていない不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	・受益者負担は発生しない。被害対策事業は、被害調査に基づき、シカの生息分布、農林作物への被害額等を考慮して実施しており、公平・公正に実施されている。	

事務事業ID	1351	事務事業名	大船渡市鳥獣被害対策協議会参画運営事業
--------	------	-------	---------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・負担金の納付により、協議会の運営が円滑になり、協議会において、防護網の設置や個体数調整、被害防除、生息環境管理など、地域の実情に応じた総合的かつ効果的な被害防止対策事業を行うことができています。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・シカによる農業被害額は毎年変動するが、集落周辺に棲みつクシカの増加に伴い、被害額も増加する可能性が高いことから、今後も事業を継続実施し、事業成果の向上を図る。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長 (氏 名)

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	農林課長	金野久志
-------	------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☒ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務執行がなされている。										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおり継続して事業を実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
